

## 水草研究会第12回全国集会報告

第12回全国集会は1990年8月4日～5日の2日間にわたり、新潟市の『ホテルニュー越路』を中心に開催された。

参加者は東京を始め、新潟より南西部の人が多く、名古屋、大阪、広島に及び、地元の参加者を含め総数48名に達し、盛会裡に終了した。

日程は次の順序で行なわれた。

8月4日(土) 13:00～会長および大会委員長挨拶

13:10～ 研究発表

座長 尾崎富衛

1. 福原晴夫(新潟大・教育): 多雪山地湖沼の陸水生態学的特徴
  2. 笹川通博(新潟・新潟向陽高): 新潟県における主な湖沼での植物の状況
- 座長 下田路子
3. 野口達也・青木章彦(作新学院女子短大): 栃木県産のトウゴクヘラオモダカ
  4. 大滝末男(淑徳短大): 皇居の水草について
  5. 浜島繁隆(愛知・高蔵高): 鍋田干拓地の水生植物

座長 浜島繁隆

6. 国井秀伸・山田賢治(島根大・理): フトヒルムシロの異形葉の役割について
7. 桜井善雄(信州大・繊維): 抽水植物群落復元技術研究の現状

余った時間で大滝末男氏よりムジナモの碑建設の経過に就いて紹介と御礼の言葉があった。また講演とは別に福島潟と鳥屋野潟の植生はかについて展示発表(写真37点、標本21点)を行ない、その内容に就いても尾崎富衛から簡単な説明がなされ、発表を終了した。

16:40～ 総会 議長 尾崎富衛 (内容別項)

事務局角野康郎氏が病欠の為、浜島副会長、林幹事が執行部を代表して議事を進め、17:20終了

18:30～ 懇親会 於大広間 出席者 44名

地元の挨拶の後、全員和気あいあいのうちに進められた。昨年の松江のご馳走攻めに対し、少しでも質を高めてお答えしようと地元一同準備をした日本一の地酒の『越の寒梅』と枝豆、本場コシヒカリと日本海の鮮魚などが出されたが、特に『越の寒梅』は好評であった。お互いに話題は盛り上がり、中め後も尽きる所を知らず、21:00を過ぎて遂に宿の係員の定刻終了の催促を受けるまでとなった。

8月5日(日) 7:20～ 朝食、8:20～ ホテル玄関前にて恒例の記念撮影 41名、8:30 Excursionに出発 37名

昨日の台風予報で心配された天気も、今日は打って変わって快晴無風となり、暑気甚だしい中をマイクロバスと自家用車に分乗して出発した。

バスは新潟市から路を東北に取り、凡そ30km離れた福島潟へ向かう。9:40到着、地元豊栄市の職員に出迎えられ、オニバス生地ならびに生育試験圃場を見学、説明を受けた。今年は例年より生育が悪いとのことであったが、今年掘削した試験圃場では生育良好の所があり、ミズアオイ、ヒシモドキ、ヒツジグサ、等も掘削後生じたとのことである。一通り見学の後、福島潟干拓地の全景を見ながら豪農市島邸へ向かった。10:30到着後ジュースで小休止、その後邸内を通り、福島潟の往時の植物が一部保存されている蒲原植物園を見学、水生植物圃場、シダ園などを巡回、11:10ここを出発し、予定には無かったが帰路の途中にある『白鳥の瓢湖』に立ち寄り、白鳥への過度の給餌による水質汚染に驚き乍ら帰路に就き、12:10鳥屋野潟畔に到着した。湖畔のレストランで中華の昼食を取り小休止。午後は一部の帰宅及び別行動の人を除き、35名程の人々が5艘の舟に分乗し、鳥屋野潟の水面に出た。今年は例年に無く湖面の水草の発育(抽水、浮葉、沈水共に)が悪く、折角遠路はるばる来られた皆様に対しまして申し訳無いことであった。しかしそれでもめあてのアサザは各所で開花しており、ヒメビシ、コウホネ、チクゴスズメノヒエ、などがみられたが、オニバスは殆ど見当らず、例年ヒシ類、ヒルムシロ、トチ

カガミ、各種の沈水性の種類で埋め尽くされる水面は皮肉にも舟の後からヘラブナが躍るだけで、全く気の抜けた状態であった。14:50上陸し、出来上がった記念写真を見ながらジュースで小休止後同じレストランに集合し、地元の閉会の言葉で2日間の行事を滞りなく終了し、15:40新潟駅で解散した。

終わりに遠路はるばるおいで下さった各地の会員の皆さんに対し、いろいろ行き届かない点があり、十分ご満足戴けないのではと危惧していたにも関わらず、皆様のご協力により無事終了することが出来たことを衷心より感謝すると共に、多くの方々からお礼状迄戴き、地元会員一同感激した次第である。(尾崎富衛記)

〔総会報告〕

I. 報告事項

1. 会員状況 (1989.8-1990.7)

入 会 19名  
退 会 4名  
現会員数 263名

2. 1989年度事業報告

- ・会報発行 No.35 (3月)、No.36 (6月)、No.37 (9月)、No.38 (12月)
- ・第11回全国集會開催 (7月29日~30日、松江市)

3. 会計報告

〔収入〕

前年度繰越金	479,252
会 費	813,000
別 刷 代	47,500
バックナンバー売上金	25,000
利 息	10,141
その他(全国集會余剰金・寄付金)	35,000

合 計 1,409,893

〔支出〕

会報印刷費	677,740
会報等発送費	173,376
事務費(通信費・文具代 他)	50,935

合 計 902,051

次年度繰越金 507,842

II. 審議事項

1. 1990年度事業

- ・会報発行 No.39 (3月)、No.40 (6月)、No.41 (9月)、No.42 (12月)
- ・全国集會 8月4~5日、新潟市

